

ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用事業  
バチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書調査研究・保存・活用

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでおり、質的・量的側面から特筆すべき成果が見られる

2. 総合所見及び特記事項

（総合所見）

当初の充実した計画通り、本年度もまた着実に事業展開がなされ、数多くの成果を生み出した実績は評価される。本プロジェクトの目標は大きく二つあり、一つはマレガ文書のアーカイブズ学的研究であり、もう一つはマレガ文書を素材にした歴史学的研究である。その両方の研究成果が専門研究者に受容されるのを待つという姿勢ではなく、積極的に研究者以外の社会一般（国内外）に浸透させるためにはどうしたらよいか、その方法を具体的に、わかりやすい、実現可能な計画を準備することが肝要であると考え。すでに、データベースや出版物などの計画は進められていようが、分かりやすい広報・宣伝も求められよう。そのことが、人文学の意義を社会に伝え、認識してもらうことにつながると考える。

（特記事項）

特に、優れている点

- ・「研究体制」について、計画が実現可能な具体性を持ち、プロジェクト参加者の能力の高さと意欲が旺盛であることから、着実な成果を生み出してきたことは評価できる。一つの実績が、例えばバチカンワークショップがイギリスやドイツなど、ほかの国のアーキビストに影響をもたらし、バチカンが保存修復機関としてヨーロッパの拠点になる展望を持つような展開が見られ出したことは、想定外の成果と言えよう。
- ・「研究体制」について、バチカンだけでなく、サレジオ大学・ローマ大学などとの連携に取り組んでいる。
- ・「国際連携・国際発信」について、ワークショップにおいて、日本の修復技術・アーカイブ研究などを積極的に発信している。